

どこにでもいる
寝取られ夫婦の
お話

八ヶ岳昌司



目次

プロローグ

- § 1 純愛を貫いて結ばれたけれどセックスは盛り上がりず……
- § 2 酔い潰れた彼女はトイレの中で見知らぬ他人にパンツを降ろされ……
- § 3 便座の上で足を開いた真由子は生まれて初めて男に中出しされ……
- § 4 見知らぬ他人に中出しされてしまった彼女を問いつめる私は知らぬ間に興奮し……
- § 5 寝取られの傷は、さらなる寝取られでしか癒すことは出来ず……
- § 6 目の前で自分の恋人に中出し射精されたみじめな男は……
- § 7 カラオケボックスに男と二人で入った彼女は結局帰って来ず……

§ 8 工場地帯の一面に停められた車の中、彼女は二人の男にしたい放題にされ……

§ 9 最愛の恋人が妊娠させられる様子をよりによって私はビデオ撮影し……

§ 10 成人映画館に入った私達は怖くて固まってしまい、そこで男達の餌食に……

§ 11 妊娠した彼女は男との関係が続けることを当然のように望み……

§ 12 ブラック企業で働く彼女の身体は男性社員のものになり……

§ 13 女の身体はどんな男でも平等に迎え入れ、そして真由子は……

§ 14 二泊三日で海に遊びに来た真由子は他人のチ○ポでやられまくり……

§ 15 信頼できる先生だからと言ってモデルになった彼女は結局すべてをさらけ出し……

§ 16 浮気の罰ゲームでハプニングバーに行ったはずが予想外の展開になり……

§ 17 結婚式を二週間後に控えた真由子は二人の男をかわるがわる受け入れて……

§ 18 新婚二ヶ月目の花嫁の股間は、あっけなく見知らぬ男のモノを迎え入れ……

プロローグ

寝取られ夫の昌史です。

これから、私達夫婦の話をしようと思います。

夫である私、昌史と、妻である真由子。

私達はお互いが高校生の頃に知り合い、そこから恋人として交際を始め、そしてお互いが二十六歳の頃にめでたく結婚しました。

あれからまもなく十年になりますが、一人娘の小百合も既に小学生になり、元気にすくすくと成長しています。

私はとある地方の中堅企業に勤務し、妻は現在保育士として働いています。

世間から見れば、私達は何不自由のない幸せな夫婦に見えるかもしれませんが。

そして実際に私達はとても幸せです。

お互いに十代の頃に好きだった相手と結婚し、夫婦として生活しているのですから。

私と真由子は変わらずお互いのことを愛し続け、むしろその愛情は十代の頃よりも強くなっ

ているくらいです。

けれども私達夫婦には、人には言えない秘密があります。

それは、私達夫婦の下半身の関係が、とてもアンバランスだということです。

私はもともとモテるタイプではなく、また若い頃から真由子一筋に生きてきた私には、浮気など思いも寄りません。

そんな私の女性経験は、これまで真由子ただ一人です。私は真由子以外の女性とセックスはおろか、キスをしたことも無いのです。

けれども、真由子の男性経験人数は、八十人を越えているのです。

しかもこれは私が知っている範囲の話です。ひよつとすると、実際にはもつと多いかもしれません。

真由子は今まで、私ではない男の前で何度も服を脱ぎ、裸にされ、その男達とキスを交わしたのはもちろん、身体中を愛撫され、それらの男性たちとセックスをしてきたのです。

そして、私達の一人娘である小百合は……。

小百合の母親は真由子ですが、小百合の本当の父親は……私ではありません。

十代の頃の愛しい恋人と結ばれて夫婦となった私ですが、現実には妻の真由子はもともと多くの男達と結ばれており、真由子が産んだのは夫の私ではなく、そんな他人との間に出来た子供なのです。

お互いが十八歳の頃に、処女と童貞を捧げあって、その後ずっと恋人同士として、そして夫婦として生活してきた私達なのに、いったいどうしてこんなことになってしまったのでしょうか。

私達は高校のクラスメイト同士でした。

高校三年生の時、私は受験を目前に控えているにも関わらず、真由子のが好きで好きでたまらなくなり、ついに告白しました。

私達が通っていた高校は地方の進学校でしたが、私も真由子もその中では成績の悪い方で、二人とも決して目立つ方ではなく、恋愛には縁が無いと思っていました。

そんな中で、私が必死になって真由子にアタックしたのは、私の人生の中でも、唯一本気になったことだったのかもしれない。

成績も悪くスポーツも苦手で、ルックスも芳しくない、そんな私でしたが、誠実だけが取り柄でした。

真由子はそんな私のことを受け入れてくれて、そして二人は少しずつ仲良くなっていったのです。

私は本気でした。

お互いはまだ十八歳だったにもかかわらず、私は真由子に「君と結婚したい」と気持ちを伝えたいのです。

私達は二人とも西日本の同じ地域の大学に進学して親元を離れましたが、お互いに夏生まれ

の二人が十九歳の誕生日を迎える前に、私達はあらためて将来を誓い合い、一夜を共にしたのです。

私が真由子と初めてのセックスをした日。

それは私にとって、人生で最高の夜でした。

そして私に処女を捧げてくれた真由子にとっても、最高の夜だったと信じていました。

けれどもその後、私は現実はそうではなかったことを思い知らされたのです。

その後の人生の中で、真由子のもっと良い最高の夜を、何人もの違う男性と過ごしてしまつたのです。

私と過ごすよりも、もっともっと良い最高の夜を。

真由子と私が将来を誓い合ってから、実際に結婚して夫婦となるまでの約七年間。その間に私が見たのは、男と女の現実でした。

私はルックスも悪く、男らしさにも欠けており、性格も不器用で、結局大学も二年で中退してしまいました。

平均値以下のスペックしか持たない私ですが、そんな私は裸になった時、男としても人並み以下でした。

自分の股間の十二センチほどのモノが、私はそんなものだろうと思っていたのですが、世の中にはもっと大きなモノを持った男がたくさんいることを、私は次第に思い知らされたのです。

そんな私に引き換え、真由子はどんどんきれいになっていきました。

高校生だった頃にはクラスの中で目立たなかった真由子でしたが、それは大人しい性格と地味なファッションのせいでした。化粧をして女らしい服装をするようになった真由子は、みるみるうちに誰もが振り返るいい女になっていったのです。

それだけでなく真由子は、とてもきれいな身体をしていました。

163センチのすらりとした体形に、88センチの美乳。そして89センチと少し大きめの形の良なお尻。

制服のブレザーと長めのスカートのでいで高校時代には目立たなかったはずのそんな真由子のセクシーな体形に、今では周囲の何人もの男が気付いてしまいます。

そして、もともと大人しい天然な性格で、人を疑うことを知らない真由子は、男に話しかけられても警戒心を持たず、男の目から見て隙だらけでした。

たとえ私という彼氏が居ても、そんな真由子に周囲の男達が手を伸ばしてくるのは当然のことでした。

私と真由子が初めての夜を過ごしてから、もうすぐ二年が経とうとする頃。

真由子が二十一歳の誕生日を迎える少し前に、私と真由子の間に小さな事件が起きました。

その事件とは、真由子のパンツの中にとある男の指が侵入し、そして真由子の股間に、ほんの15、6センチほどのモノが突っ込まれた、というだけのことでした。

それは私のモノと比べて、ほんの3、4センチ大きい、というだけのことでした。

けれどもそのわずか3、4センチの違いが、私には絶対に届かない距離となつて、私と真由子との間に永遠に埋まることのない溝を作つてしまいました。

そしてその溝は、時が経つにつれて、ますます大きく、広くなつていったのです。

男と女の現実。

それは真由子が男なら誰もが手を出したくなるようないい女で、その恋人であるはずの私は、そんな真由子と釣り合わない貧相な男だという事実でした。

たとえ彼氏がしようと、高校生からの付き合いであろうと、大人になればそんなことは関係がなく、いい女はどこに行つても男達の欲望の目に晒されるのです。

私は真由子のことを守ることが出来ず、そして気が弱く天然な性格の真由子は、やがて隙を突かれて陥落してしまいます。

人を疑うことを知らず、また強く押されると断れない真由子は、ある時は酔わされ、ある時は騙され、気が付けば男にプライベートな場所に連れ込まれ、最初は嫌がついてもやがて陥落して、結局男にすべてを許してしまうのです。

そして、平均以下の私との貧弱なセックスしか知らない真由子はやがて、そうやって他の男に身体を許すことが、私と過ごす時間よりも気持ちいいことに気付いてしまいます。

高校生の頃からの純愛カップルで、精神的な結びつきの強い私達は、たとえ真由子が他の男に身体を好きにされてしまった後でも、お互いのことを嫌いになることが出来ず、私達はそれでも付き合い続けることを選びました。

けれども、私達は結局、男と女の現実から逃れることは出来ませんでした。

その現実とは、きれいな花に蜜蜂が集まるように、真由子にはどこに行っても男の手が伸びてくるという現実。

そして、恋人であるはずの私は男として貧弱で物足りず、私が真由子とするセックスよりも、他の男が真由子にするセックスの方が何倍もいいという現実でした。

世の中では、男はいい女を巡って競争し、その競争に勝ち抜いた優れた男が女をモノにします。

私と真由子の関係は、そんな男と女の法則に反していたのだと思います。

最低に貧弱な私と、最高にいい女である真由子。

裸になってセックスをした時、その身体の現実がはつきりとしてしまうのです。

精神的にいくら愛し合っても、その身体の現実には私達は勝てず、やがて私達の関係は少しずつ歪んだものになっていってしまいました。

いつしか真由子は私という恋人が居ながら、他の男に着いて行って抱かれることが快感になってしまいます。

そして私は、そんな真由子の姿を想像し、他の男に裸で抱かれる姿を思い浮かべることで、言い知れぬ興奮を覚えるようになってしまいました。

そんな二人が、見知らぬ男性と一緒にラブホテルに入り、お互いの目の前で一番恥ずかしい姿を見せ合うようになるまで、時間はかかりませんでした。

真由子は私の目の前で全裸になって他人に抱かれてあられもない声を上げ、私は下半身裸と
なって、そんな真由子の姿を見ながら涙と鼻水にまみれてオナニーをする。

気が付けば私達は、そんな行為を繰り返すようになってしまったのです。

十代の頃、将来を誓い合つた純愛カップルだったはずの私達。

それがやがて、彼氏の方は一人しか女を知らないのに、彼女の方には次々に何本も男のモノが突つ込まれ、彼女の男性経験だけが増えていく、そんな壊れた純愛になってしまったのです。

誠実だけが取り柄だと思つていた私は、本当は男として不能な情けない男でした。そして目の前で大切な女性が他の男に抱かれる姿を見て喜ぶ、どうしようもない変態でした。

そして真由子は。

私が十代の頃、必死になつて告白したおとなしい性格の美少女は。

彼女は本当はどんな男にも股を開いてしまう淫乱でした。

何人もの男に抱かれて男達の視線を浴び、何本ものチ○ポでかわるがわる愛されるのが大好きな、底なしのドスケベ女だったのです。

それでもお互いに相手のことをあきらめることが出来ず、歪んだ関係のまま夫婦となつた

私達。

たとえ夫婦となったとしても、やはり私達は身体の現実から逃れることが出来ず、やがて夫婦の寝室に他の男を迎え入れました。他人のチ○ポによって下半身を支配され、新婚にも関わらず妻の股間は何本もの男のモノを迎え入れました。そしてその中のある男性によって、真由子は妊娠させられたのです。

セックスというものが子孫を残すためのもので、競争に勝ち抜いた男だけが、自分の子供を女に産ませるのであれば、私達夫婦はその法則通りになったのです。

たとえ十代からの付き合いだと言っても、法律上で夫婦となっても、一度裸になってしまえばそれは関係ありませんでした。弱い男である私は結局真由子のことを守り切れず、真由子は私ではなく、そんな負け犬の私から真由子を奪い取って感じさせた、よりたくましい男の子供を産んだのです。

下半身の現実打ちのめされ、夫婦としての大切なものを、根こそぎ他人に奪われてしまった私達。

真面目な純愛カップルだったはずが、いつしか他人に話すことの出来ない秘密を持つ変態夫婦となつてしまった私達。

そんな私達の下半身のお話を、これから順を追つてしたいと思います。

事実は小説より奇なりと言うように、あまりにもおかしなことが起きるので、皆さんは信じないかもしれませんが。

けれども、差し障りの無い範囲なるべく正直に書いたつもりです。

むしろ本当は、ここに書いたよりもっともっと多くの寝取られを経験し、もつといろいろな変態プレイをしてきたのです。(それらのプレイは、別のお話の中で形を変えて告白します)

また、真由子が初めて浮気をしてしまつてから、二人が寝取られ性癖のカップルとなつてプレイを開始するまで、その経緯が少しばかり唐突で不自然だと思われるかもしれません。

けれども、どうしてこんなふうになつてしまつたのか、いつから、どうして、寝取られを快感に感じるようになってしまつたのか、自分達でもわからないのです。

それに、他人の物語はともかく、自分達の話は上手く書くことが出来ません。ですから、少しばかりぎこちない文章になつてしまふかもしれないかもしれませんが、よろしければお付き合ってください。

そして、どこにでもいる一組の寝取られ夫婦の物語を、興味を持って楽しんでいただけたら嬉しく思います。

(体験版はここまでとなります。続きは製品版にてお楽しみ下さい)

© 八ヶ岳昌司 2020年

ブログ 寝取られと純愛 (現在休止中)

ntrllove.com

表紙絵 ジュエルセイバーFREE

<http://www.jewel-s.jp>